

## 「主の晩餐会に招かれて」

(マタイの福音書 15章32—38節)

### 本論

1. イエスの弟子たちへの提案 (32)
    - (1) かわいそうに
    - (2) 三日間ともにいて空腹
    - (3) 途中で動けなくなるといけない。
  
  2. 弟子たちの応答 (33)

「人里離れた所で、どこで食料を手に入れるのか？」
  
  3. イエスの質問 (34a) 「パンはいつくありますか？」
  
  4. 弟子たちの答え (34b) 「七つと少しの魚」
  
  5. イエスの群集への命令 (35) 群集を地面に座らせる。
  
  6. イエスの祈りと配餐 (36)
    - (1) 七つのパンと魚を取り、感謝の祈りをささげた。
    - (2) それを裂いて、弟子たちに与えて群集に配餐
  
  7. 結果 (37—38)
    - (1) 皆食べて満腹
    - (2) 余ったパンきれで七つのかごがいっぱいに
    - (3) 食べた人は、男子4千人
- 
- ### 応答
1. かわいそうに思われたイエスさま (32)
    - (1) 岩波訳「はらわたのちぎれる思いがする」
    - (2) スプランクニゾマイ＝「はらわたが揺らされるような思い」
    - (3) 聖書で感情が表現される場所＝人間の臓器＝「はらわた」
    - (4) 12回(マタイ⑤マルコ④ルカ③)で、この言葉の主語は「イエス」が9回、他3回はたとえ話(1万タラント借金した主人、良きサマリヤ人、放蕩息子の父親)

- (5) 人間は、同情しただけでは状況を変えることはできませんが、神（イエス様）はできます。ですから、「あわれに思った」イエス様は、病気の人を清め（マルコ 1:41）目の見えない人を癒し（マタイ 20:34）やもめの一人息子をよみがえらせ（ルカ 7:13）食べ物のない群集のためにパンと魚を与えた。（マタイ 14:14、15:32）放蕩息子を「あわれに思った」父親は、彼を息子として再び受け入れた。（ルカ 15:20）

## 2. どこで手に入れるのですか？「絶対不可能です」（33）

- (1) 人里離れた山奥で、こんなにも沢山の人たちのお腹を満たすなんて（男子 4 千人）  
(2) 人間的に見て「不可能」 ⇒ 「常識的な判断」

## 3. 感謝の祈りをささげられたイエスさま（36）

- (1) イエス様は、食べ物が十分にあることがわかっておられたので神に感謝の祈りを  
(2) 7つのパンと少しの魚で十分であった。  
(3) 「感謝の祈りをささげて」＝「ユーカリステオー」  
① 38回（マタイ②マルコ②ルカ④ヨハネ③使徒②パウロ④黙示録①）  
② 神への感謝  
③ 最後の晩餐（マタイ 26:27 マルコ 14:23 ルカ 22:19 使徒 27:35）  
④ ヨハネ 11:41「ラザロの復活」の所では、ラザロの墓石をどけて、「父よ、私の願いを聞いてくださったことを感謝します。」と言われた。今朝のマタイの箇所と似ている状況である。ラザロの復活をすでに知っておられたイエス。ゆえに感謝した。  
(4) 疑いながらの感謝じゃないか？本当に感謝しているか？

## 4. 皆が満腹した（37）

- (1) 男子 4 千人がみな満足した。  
(2) 本当ですか？  
(3) イエス様は、皆のお腹を満たされた。  
(4) 私のお腹も満たされるお方

## 5. 私をも晩餐の席に招いてくれているイエス様